

2022春闘妥結にあたってのバス東北本部見解

J R東労組バス東北本部は、2月25日に申8号「2022年度賃金引上げ等に関する申し入れ」を行った。バス東北本部は申し入れ当初から中央本部、バス関東本部をはじめ、J R東労組のすべての仲間とともに、この厳しい情勢の中で22春闘をたたかい抜くために、その力を結集させてきた。

計3回の交渉において、昨年から大幅に急増している退職数に伴う深刻な要員不足のなかでの組合員・社員の勤務協力や、3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震の影響によって運休した新幹線及び在来線の代行輸送、更には東北地区から首都圏への続行便対応など、職場の奮闘を最大限訴え、職場社員の努力で会社経営が成り立っていることを強調した上で、会社として組合員・社員の労苦に最大限応えるべきだと迫ってきた。そして何よりも今春闘でベースアップがなければ、ジェイアールバス東北会社としては5年連続のペアゼロとなることから、コロナ禍での高まる労働力の価値に対して最大限評価をし「十分な人への投資」を行うためにはベースアップは必須であり、昨今の多方面における様々な物価上昇等がある中で、生活を維持向上させるために賃金引き上げが必要であることを合わせて強く主張してきた。

しかし、3月30日の第3回交渉において示された会社回答は、足元の業績を踏まえながら中長期的な見通しに基づき判断しなければならないとの姿勢を崩さず、赤字という厳しい経営状況を理由に定期昇給の完全実施は確認できたものの、ベースアップについてはゼロ回答であった。

昨年の春闘で全組合員一丸となった、たたかいをつくり出せなかった教訓から、回答を受けての全組合員の声を集約するために職場議論を展開してきた。4月12日の分会代表者会議では、定期昇給の無い55歳以降の社員や契約社員の切実な声が訴えられ、このままでは更なる人材流出につながる恐れがあるとの意見で一致した上で、申9号「緊急再申し入れ」を行うこととした。交渉ではこれまで共に職場で奮闘してきた仲間を、これ以上失わないためにも最後まで職場の声を最大限訴えた上で、「55歳以上の定期昇給の実施」と「契約社員の待遇改善」を再度議論した。更には労働組合として魅力あるジェイアールバス東北会社とするために、特に改善を求める声があった「乗務員連続勤務手当の増額」と「受託加給の増額」についても訴えてきたが、会社側は業績が赤字であることを理由に最後まで会社回答を変えなかった。その後、全分会代表者と議論した上で成果と課題を確認し、今後のたたかいへと繋げるために妥結を判断した。

J R東労組バス東北本部は現在の経営環境を認識しつつも、会社の将来と組合員の雇用と生活を守るために要求していく姿勢に何ら変わりはない。結果として22春闘は敗北と言わざるを得ないが、組合員の声を第一に考え再申し入れにまで高め、最後の最後まで職場からの声を絶やさず、たたかいをつくり出してきた事は大きな前進である。しかし、要求の実現に至らなかった組織現実を受け止め、要求実現できなかった悔しさをバネに、今春闘での課題を各分会で明確にして組織強化・拡大へと繋げていかなければならない。ジェイアールバス東北会社の未来を守り抜くために、更なる組織強化・拡大を実現し奮闘していく。

これまで交渉を支えていただいた組合員とご家族、そしてJ R東労組の仲間の皆さまに感謝を申し上げ、本日「春闘妥結」とし、見解とする。

2022年 4月 21日
東日本旅客鉄道労働組合
ジェイアールバス東北本部